

地域在住高齢者における舌の筋肉量、筋力と全身の筋肉との関係

古屋 裕康

論文内容の要旨

本研究は、高齢者における舌の筋肉量と筋力が全身の筋肉と関連することを明らかにするために、65歳以上の地域在住高齢者で20歯以上を有する364名(男性169名、女性195名、平均年齢75.6±5.8歳)を対象に横断調査を行った。基礎情報(年齢、性別、基礎疾患、生活の自立度、認知機能)の聴取、体格指数(Body Mass Index: BMI)、骨格筋指数(Skeletal Muscle Mass Index: SMI)、膝伸展力、握力、通常歩行速度、舌筋肉量(超音波診断装置による舌厚径)、舌筋力(舌圧計)の測定を行い、相互の関係を検討し、以下の結果を得た。

1. 舌筋肉量は、男性では年齢との関連を認めたが、女性では認められなかった。
2. 舌筋力は、男女ともに年齢との関連を認めた。
3. 年齢を制御変数として検討すると、舌筋力との関連を認めた項目は、男性では舌筋肉量のみ、女性ではBMI、SMI、膝伸展力、握力、通常歩行速度、舌筋肉量であった。

論文審査の要旨

本研究は、20歯以上有する地域在住高齢者を対象に行った調査から、舌の筋肉量、舌筋力と全身の筋肉との関連を検討したものである。その結果、舌筋肉量、筋力は年齢、性別、栄養状態、全身の筋肉量や筋力の影響を受けることを明らかにしている。これらの知見は、舌筋肉量、筋力と全身の筋肉との関連性について重要な示唆を与えるものである。

以上は、歯学に寄与するところが多く、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。

主査 沼部 幸博

副査 志賀 博

副査 新井 一仁

最終試験の結果の要旨

古屋裕康に対する最終試験は、主査 沼部 幸博教授、副査 志賀 博教授、副査 新井 一仁教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試問が行われ、優秀な成績で合格した。